

酒々井町郷土研究会会報

第88号

平成10年4月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡周辺の散策(五)

高橋健一

7 勝胤寺

浜宿城跡がある花輪台地の裾に常
 齋山勝胤寺(佐倉市大佐倉字浜宿)
 があります。勝胤寺は、当時常齋と
 いう法号を名乗っていた千葉勝胤(本
 佐倉城主二代目)が、僧華翁祖芳を
 招聘して享禄元年(一五二八年)八
 月十九日に建立したと伝えられる曹
 洞宗の寺院です。勝胤の時代には光
 玉寺(法華宗、後の妙胤寺)、海隣
 寺(時衆道場)、勝胤寺が建立され
 ていることから、本佐倉城の城下町
 は孝胤の跡を継いだ勝胤の時代に大
 きく整備されていったものと思われま
 す。

天正十九年(一五九一年)十一月

の勝胤寺領帳には、

一 御朱印式拾石 常齋山勝胤寺

此反別

下田式町三反九畝拾六步

中田式反四畝拾三歩

下畑五反八畝式拾七歩

一 門前百姓 六軒

一 境 内 東西百八拾口間
南北百四拾三間

一 社堂の間数

山門 長八間横六間

客殿 長拾壹間横七間

祖師堂 三間四面

方丈 長六間半横四間半

庫裡 長九間横六間

衆寮 長七間半横五間半

江湖寮 長七間半横二間五尺

鐘楼 二間四間

回廊 五拾四間

地藏堂 式間半四面

鎮守社 長七尺横五尺

秋葉権現社 長八尺横口尺

とあり、多数の仏堂が配置されてい
 たことがわかります。幕末の絵図面
 によれば、表門(現在「延命水」元
 勝胤寺總門跡)の木柱が建てられて
 いますが、表門跡の誤り)、惣門を
 くぐると正面に回廊で方形につなが
 た仏堂群が並んでいました。正面の
 門は山門とも三門ともいわれ、左右
 に回廊が取り付いていました。

山門に向かって回廊を右手に進む
 と鐘楼・回廊・庫裡・廊下・方丈・
 玄關を通過して本堂に至り、回廊を左
 手に進むと江湖寮・回廊・衆寮・回
 廊を通過して本堂に至りました。なお、
 朱印地二〇石の内訳は、下田二町三
 反九畝一六歩が石高一六石七斗六升
 七合、中田二反四畝一三歩が石高一
 石四斗六升六合、下畑五反八畝二七
 歩が石高一石七斗六升七合と打出し
 されたものでした。

江戸時代の佐倉城主稲葉氏家臣渡
 辺守由の『古今佐倉真佐子』には、

大寒の鎌倉金沢街道周辺を行く①

正井 和子

「行って来ます」。門を出れば朝の清冽な空気に眠気もふっとんで、サア、郷土研名勝探訪の第一回目です。オレンジの旗の下二十六名で鎌倉へ出かけます。

七時十八分の快速で一路鎌倉へ。電車は空席多く全員座ることができて、あちこちで話が弾み、暖房のよく効いた車内は極楽で縮毛を過ぎる頃から、富士山が真白な姿をみせて今日一日の旅を祝してくれる。横浜を過ぎると沿線にまだ雪の残りがあり、道の雪の多さを語っている。

鎌倉駅からバスでコース始めの杉本寺へ。坂東三十三番札所の一番札所で、光明皇后の願いにより僧行基が自ら刻んだ十一面観音が安置された鎌倉最古の古刹で、石段を声をかけ合いながら登って行く。杉本寺は文治五年(一一八九)十一月二十三日の夜、隣屋よりの火災で類焼しその折に本尊自らが庭内の大杉の下に移り火を避けられたので、それより杉の本の観音と呼ばれたと「吾妻鏡」

は伝えている。手を合わせ心から健康と家内安全を祈る。

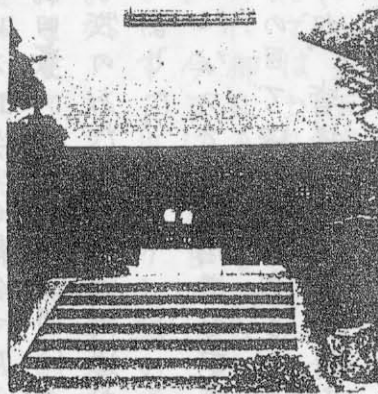


杉本寺本尊十一面観音

次に徒歩で浄妙寺へ、ここも残雪が脇に片寄せられているが、凍りついて解けるには日時がかかりそう。でも、梅は咲き、その万両の実は紅つややかに春の来ることを告げている。

この寺は鎌倉五山の中で第五位に列し、最初は極楽寺と称したが、足利尊氏の父貞氏の法号浄妙寺殿貞山をとり改称し浄妙寺とつけられたと伝えられている。茶室「喜泉庵」で、五百円でお抹茶が頂けるとの事で全員で緋毛氈の上に座ってお茶をいただく。志野焼、萩焼、楽焼等々のお茶碗でいただいたお茶は、歩いて来た私達にとって、実に清涼剤の一品でした。水琴窟がこしらえてあり、その音を聞かせていただき一滴の水

が自然に奏でる音の美しさに魅了させられる。茶室より眺める庭の景に見惚れ雑事を忘れる。ふと、昔の人に思いを馳せ、こんなに開け放った部屋にいてどんなにか寒かったでしょうと、今私達の生活環境と比べ思わず顔が苦笑にくずれてしまった。



浄妙寺の仙殿

次に浄明寺から青砥藤綱邸旧蹟へ、そして足利公方邸旧蹟へと足を運び、さすが鎌倉、歴史を踏まえて現在の人々が日常生活をしていることに感銘する。(以下②として次号89号に掲載)



杉本寺新十一面観音

安藤 一郎 先生

両総の古道「御成街道」を聞いて

上野 和子

二月四三、立春の暖かい一日視聴
覚室で安藤一郎先生をお迎えして御
成街道についての講演がありました。
講師の安藤先生は昭和五十年から御
成街道についての研究を始められ、伝
えられる道を文字通り地に足をつけて
御自分で調査・研究されたそうです。
ここに講演内容の要約を紹介したい
と思います。

御成街道は船橋から東金まで続く
「棒道」とか「提灯街道」と呼ばれ
る古道です。

徳川家康が佐倉藩主の土井利勝に
命じて三日三晩で造らせたといわれ
ています。その目的としては一、
東金で鷹狩りをする為、二、安房の
外様大名見氏への牽制の為、三、
九十九里からの物資の流通ルートと
して、などがあります。

また沿道には、船橋御殿、御茶屋

御殿、東金御殿がありました。がそれ
ぞれの遺構は江戸初期の面影をとど
める貴重なものです。当時は大坂・
冬の陣の直前だったので隠密が暗躍
していたこともあり、御殿大工たち
の御殿普請終了後の行方はわからな
いそうです。

造られた時期は慶長十九年一月(一
六一四年)で、寛永七年十二月三
日(一六三〇年)まで鷹狩りに利用
されました。

『徳川実紀』によりますと、慶長
十八年十二月十二日、中原の宿(今
の神奈川県平塚)に泊まっている家
康の元へ土井利勝が呼ばれ、秘密の
うちに御成街道を造るように命じら
れました。翌年一月七日には家康は
東金へ鷹狩りに出かけているのでい
かに急いだかわかるようです。

その年の九月九日、里見忠義は家
康の元に挨拶に行きましたが、その
場で伯耆の国への転封が命じられま
した。安房・鹿嶋十二万石から倉吉
三万石に、さらに奥地の関金へ移さ
れ千石になりました。御成街道は鶴

の御成街道ともよはれ、鷹狩りでは
鶴を捕まえることが主でした。房総
には鶴が多くいたようで鶴舞とか鶴
牧という地名がたくさん残っています。

街道造成に動員された村は県内に
八十九か村あり沿道の村だけでなく、
近くでは坂戸・岩室・馬渡・物井・
志津などからも動員されていますが
酒々井からは駆り出されていません。
そういえば先日の総会で展示され
た「島田家・佐倉大牧絵図」の中で
小間子牧のあたりに御成街道が示さ
れていました。

六月になって御成街道を実際に歩
き自分の目で確かめられるのが楽し
みですね。皆様の参加をお待ちして
おります。



植物のはなし (一五)

常磐はせと雀の帷子のふたりごと

亀井香久乃

ほっくりと暖かな陽光が、我が屋
廻りの草ぐきにも当たる季節となり
ました。そんな或る日の昼下がり、
小さな囁きが聴こえました。

「わたしと、あなたは共に、
人びとにとっては目ざわ
りの草で、花を咲かせる
こともままならず、地上
に顔を出せば、すぐに抜
かれる悲しい宿命ね。」

と語り合っています。わたしとは、

トキワハセ(ごまのはぐさ科)あな
たとは、スズメノカタビラ(いね科)
で、共に何処の庭でも空き地にも生
える招かれざる客です。漢字を当て
れば常磐はせは一年中生えていて、
種がはぜるといふ意味のようです。

雀の帷子は、雀は小さい意味で帷
子を付けたのは、見栄えのない草な

ので、少し格を与えたのでしうか。
どんなつまらない植物でも名前を知
ることにより親近感を覚えます。

高山帯のみに気高く咲く貴婦人
(コマクサ)よりも、身近に見てい
る草たちには、愛しさを感じます。



トキワハセ



スズメノカタビラ

名勝探訪 「人形町」

寒い寒い朝でしたが、大勢の人と一
緒に人形町へ向かいました。人形町
に着いてすぐに役員挨拶があり、
駅近くにある大観音寺へ行きまし
た。ここでは仏頭が拝見できると思
っていました。おくりあしく御開
帳の十七日しか拝観することができ
ないということでした。

大観音寺をでて甘酒横町をぶらぶ

らと散策し、続いて粟田美術館へ行
きました。足利市の粟田美術館の
方に展示物が全部移ってしまい、美
術品は何も見ることができませんで
した。美術館をあとにして、昔、人
形町の町といわれ、第二次大戦の戦
災を免れ、今も古い町並をとどめる
人形町のいわれの説明板を読むなど
してから水天宮へ向かいました。

ここではお礼参りをする人や、孫
のために御礼を受ける人などがいま
したが、今日は戌の日ではないので
混雑もせず、ゆっくりと願ひ事がで
きてよかったです。それぞれにお参
りをすませてから集まり、副会長の
説明を伺って、狛犬の口の口は玉を
持つているので雄犬、ノの口はそば
に子犬がいるので雌犬だとわかりま
した。水天宮を後にして、次に谷崎潤
一郎の誕生の地を見て昼食となりました。
それぞれ好きな所へ行つて暖かいものなど
を食べ、少し休憩してから日比谷線人
形町駅前へ解散となりました。それ
ぞれ上野へ向かい、下車をしてアメ横
に寄る人や、酒々井へ向かう人など、
思い思いに帰路に着きました。いろ
いろと思ひ出に残る一日でした。

見学案内



一泊見学会

五月十九日(火)～五月二十日(水)

飛彈高山方面

宿泊先 ひだプラザホテル
電話 〇五七七一三三四六〇〇

朝六時の少し早い出発ですが、遠くまで行きますのでがまんして下さい。

酒々井を出発して中央高速道の瑞浪で降り、まず化石博物館で珍石奇石を見物します。再び中央道にのり中津川で降り、舞台峠を抜け下呂に着きます。

下呂の合掌村は白川郷の家屋十二棟の合掌造りを移築してできた合掌の里で、資料館や実演など、隣接する爬虫類館等見学し、高山のホテルに向かいます。

高山にも合掌村(飛彈民俗村)が

あり、合掌造りの家々のほかにセイロ倉・蔵小屋やバツタリ・杣・木挽等の小屋があり、火の見、水車、匠堂、鈿女神社等の建物もあり、民具五千点を各所に陳列し、一位一刀彫、挽物、和紙、染色、検査、飛彈塗り等実演してあります。到着時間によつて、下呂か高山のどちらかを見学します。

高山の宿では手足を伸ばし和やかに宴会の一刻を過ぎましょう。

高山陣屋は天領時代の代官屋敷で年貢米を入れる米蔵がずらりと並びお白州まであり、此の陣屋の前庭に朝六時から朝市が立ちます。

古い町並の並ぶ三町筋は町人の町として一之町・二之町・三之町と通りが三本あり三町筋といい、約四百メートルの三之町が一番人気があります。飛彈国分寺は聖観音・薬師如来・三重の塔・大イチョウと大礎石がみもの。本堂と佛像は重文です。屋台会館は屋台を教台展示し巫女の説明と十五分間のビデオ上映もあります。

名勝探訪

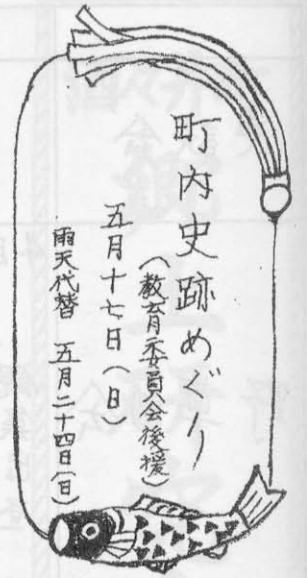
世田谷方面

6/9 (火) 雨天代替 6/11 (木)

勤皇の志士、吉田松陰をまつる松陰神社から井伊大老の眠る豪徳寺まで、世田谷の史跡をめぐるでしょう。三軒茶屋から世田谷線にのり、松陰神社で降りて商店街を行くと、弟子たちが奉納した石灯笼の並んだ参道に着きます。左側には松陰の墓所があります。

若林公園で昼食の後、眠り猫伝説の豪徳寺を訪ねます。境内の左奥に井伊直弼をはじめ歴代の墓が並んでいます。続いて江戸三相撲で有名な世田谷八幡にお参りして帰途に着きます。歩行約一時間のコースです。





青葉目にしみ入る五月空のもと、親子で、ご夫婦で、お友達でとお誘い合わせてご参加下さい。今回は、尾上・飯積方面を歩きます。

東光寺

本尊は胎蔵界大日如来で創建は鎌倉時代で、佐倉五ヶ寺の一つです。酒々井町最初の議会はこの寺で開かれました。町指定の文化財で、石造大日如来供養塔と石造庚申塔と近くに幕末の書道家であり、寺小屋を開き多くの門人を育てた高幡南溪の墓があります。

大谷津

旧芝山街道で上本佐倉から大川戸迄往時の面影の残る小径を辿り、大川戸で石造丸彫りの大きな延命地藏尊を参拝します。

正福院

子安観音を祀り、ここには珍しい空付六角六地藏があります。此処で昼食とします。

(附近に商店等何も無く、全員弁当持参です)

住吉神社

京増元町長宅の横の細い坂道の中段にあり、鳥居の無い神社で、住吉神社は古来より海路守護神として漁業水運関係者に信仰されたものです。直ぐ下の高崎川は水運に利用されていたので、水運関係者によりここに移されたものでしょう。合祀祭神に三峯神社、疱瘡神社、蚕神社等珍しい石宮があります。登り口の反対側に門倉家の氏神としてまつられている双体道祖神が、小祠の中に安置されています。

伊豆神社・子安神社

伊豆神社は飯積の鎮守で子安神社の名で知られていますが、伊豆神社に子安神社を合祀したもので奇現象となつています。ここには昭和四十六年に町の天然記念物の指定になった大杉があります。

初夏の日差しを浴びながら普段あまり歩かない小径をのんびりと散策しましょう。

御成街道を歩く

六月十五日(月)

今から約四百年前、江戸幕府を開いた將軍徳川家康公が鷹狩りなど



ために造った船橋・東金間を一直線にむすんだ道。一夜でとも三日三晩で造ったともいう伝承のある御成街道。

全長約四十キロメートル。全道を一気に歩きたい意気込み

されどマラソンコース並みの距離を歩く? 嗚呼! 脱力!!

では少しずつ区切って歩きましょうか。

船橋からか? 東金からか? 迷いましたが、まずは船橋から

しましょう。家康と共に

月日	内容	参加者数	月日	内容	参加者数
1/6	わらじ作り学習(杜崎)	10	2/9	研修部会	9
1/10	会計監査	7	2/10	大室小、テニについて	2
1/13	わらじ作り学習(役場)	8	2/15	会長自治功労賞祝賀会	19
1/14	大室小 わらじ作り指導	9	2/18	編集会議	6
1/17	総会準備運営委員会	22	2/26	部長会	12
1/23	七草粥献立会議	5	2/8	運営委員会	22
1/25	第22回定期総会	130	2/7	史談会 No.2	26
1/29	七草粥下拵え	8	2/24	会報編集(校正)	6
1/30	七草粥を食べる会	78	2/25	町制観光学会(川崎・榎津)	90
2/4	安藤先生・御成街道講演	45	2/26	会報印刷	7
2/7	史談会 No.1	26	2/27	会報発送	23

郷土研行事案内

H10年4月~H10年6月

	4月	5月	6月
史談会	休み	2日(土) PM1:30 公民館会議室 「印旛郡誌酒々井町誌学」③ 講師 高橋健一先生	6日(土) PM1:30 公民館会議室 「印旛郡誌酒々井町誌学」④ 講師 高橋健一先生
野草の会	4月17日(金) ◎ 弁当持参 (雨天社) 野草観察の会 観察場所 酒々井一本佐倉 集合場所 中央公民館ロビー 出発時間 9:30 昼食場所 上本佐倉「JMI」にて 湯茶は用意してあります。 午後は野草の勉強会になります。	4月26日(日) 中央公民館講堂 12:00 会食 山菜を食べる会 申込受付・4月15日(水) 9:00 受付場所・中央公民館ロビー 定員・80名 会費・700円 キャンセル・会田宅() ※6月まで上記番号変更しました。	
町内史跡めぐりハイキング (町教員会後援)	5月17日(日) 雨天代替 5月24日(日) コース 公民館—東光寺—大川戸—正福院—観音堂—住吉神社—伊豆神社—総合公園 (15:00公民館に帰着予定) ※弁当、飲み物、敷き物持参下さい。約8km少々歩きます。受付時間 9:00 ロビーにて	尾上・飯積方面 / 快公民館 9:30 出発	
名勝探訪	6月9日(火) 雨天代替 6月11日(木) コース 京成酒々井駅—日暮里—渋谷—東急世田谷線—松陰神社前—松陰神社—若林公園(昼食)—豪徳寺—世田谷八幡宮—東急世田谷—渋谷—京成酒々井駅 (弁当・飲み物持参して下さい) ※都合により行程変更があります。	世田谷方面 / 京成酒々井駅 8:10 集合	
御成街道探訪	6月15日(月) 雨天中止 京成酒々井駅—京成船橋—船橋駅界限—大神宮下駅—京成酒々井駅 費用自己負担・昼食は自由昼食です。	船橋駅界限 / 京成酒々井駅 9:00 集合	
一泊見学会	5月19日(火)~5月20日(水) 申込受付 4月15日(水) 9:00 受付場所 中央公民館ロビー 定員 45名 会費 26,500円 キャンセル 実施日5日前まで 連絡先 会田委雄幸 電話 () 会田宅電話番号が6月まで上記に変更	飛弾高山方面 / 中央公民館 5:50 集合 <行程> 5/19(火) 酒々井(6:00)—湾岸幕張—中央道—石川PA—ハケ岳PA—神坂IC—瑞浪IC—瑞浪(昼食)—瑞浪市化石博物館—中津川IC—舞台峠—下呂合掌村—高山(17:50) ① ひだプラザホテル(0577-33-4600) 5/20(水) 高山(8:00)—高山市内見学(昼食)—平湯—安房トンネル—松本IC—ハケ岳PA—石川PA—湾岸幕張—酒々井(20:10頃)	

お手伝い下さい
る方は9:00まで
てにきて下さい

あしがき

四年に一回冬のオリンピックも終わり、原田さんの金メダルの涙に涙してしまいました。又パラリンピックの方々もすばらしい活躍でしたネ。
四月になり気候もおたやかになりました。郷土研の行事も野草、御成街道の探訪。又一泊旅行などなど楽しみがーパイです。どうぞ皆さん元気に参加して下さい。お待ちしております。

野草観察会に参加下さい。

亀井様にご指導して頂きます。回数を重ねる度に覚えた草の名教も覚えて、楽しみです。忘れた名前も思い出しましょう。